

二重ネット工法を用いた畦畔法面におけるシバ(*Zoysia japonica*)の植栽技術

維持管理しやすい芝生畦畔を、斜度30°から45°の急傾斜の法面においても容易に造成できる技術の開発

研究開発の背景

- ・高齢化が深刻かつ畦畔率の高い中山間地域では、畦畔管理の省力・軽労化が喫緊の課題となっている。
- ・芝生へ植生転換すると省力・軽労化が可能だが、法面の傾斜が30°を越えると、従来の張芝工法やポット苗工法では、作業性に大きな問題がある。
- ・そのため、急な法面でも生産者自身によって容易にシバを植栽できる技術が必要。

研究成果の内容

二重ネット工法の利用で急傾斜の畦畔法面を容易にシバへ植生転換

斜度30°から45°の急傾斜の法面でも生産者自身で容易にシバを植栽できる技術。

作業能率は従来の植栽方法に比べて極めて高く、5名程度の組作業で植栽できる。

[手順]

1. 前植生をあらかじめ野焼きや除草剤で処理する。
2. 5cmの床土を入れて、6月上旬に二重ネットを展開し、直ちに1cmの目土を入れる。
3. 植栽した年には9月に1回、次年からは5月、7月及び9月の年3回の刈取りで、おおむね2年から3年で芝生畦畔が成立する。



導入メリット

畦畔の管理費は25～40%削減可能

- ・通常の雑草畦畔では年4～5回の草刈りが必要だが、芝生畦畔では夏期の草刈り削減をはじめ、年3回程度の草刈りとなる(畦畔管理費は25～40%カット)。
- ・芝生畦畔では、草刈りとシバ以外の雑草だけを枯らす選択性除草剤、双方による維持管理が可能となる。
- ・芝生畦畔は足元の状況が確認し易く、草刈時に転倒の危険性が低い。
- ・芝生畦畔は、優れた景観を形成する。



期待される効果

- ・シバ二重ネット工法により芝生畦畔への植生転換が進むと、畦畔管理費が削減されると共に、農村に芝生畦畔による美しい景観が成立する。

導入をオススメする対象
東北以南の中山間地域等の畦畔法面